

県共闘

神奈川県共闘ニュース

発行 神奈川県労働組合共闘会議
住所 〒231-0028
横浜市中区翁町1-5-14新見翁ビル4階
電話・FAX 045-319-4391
e-mail kanagawaroudousoudan@gmail.com

2025 年
8 月 28 日
第 42 号



県共闘ホームページ
Kana-kenkyoto.org

「平和はもろいもの」伝えようこれからも！

8月5日の二宮町生涯学習センター・ラディアンでは、戦争の記憶を伝え平和を願う「第34回ガラスのうさぎ像平和と友情のつどい」が開催、参加者は平和を願った。

当日のつどいでは二宮中学校の生徒が銅像の碑文を、二宮高校の生徒が銅像碑文の英訳文を朗読、そしてガラスのうさぎ著者の高木敏子さんからのメッセージが披露され、「平和はもろいもの」、「戦争のために生をまっとうできなかった人たちのためにも、若い命を大切に」などの言葉が伝えられた。つどいでは戦争体験談が語られ、8月5日の二宮駅の空襲、機銃掃射や平塚の軍需工場が炎上する様子が具体的に語られた。また、町役場そばの吾妻山山頂付近には地下壕が残っており、相模湾

を通る戦艦への砲撃のための壕だったのではと話すなど、リアルな体験談と戦跡の報告が行われた。そして紙芝居では「荷物と同じ重さの人生を生き抜いて」が、プロジェクターで拡大され上映、映し出された絵の中には戦争の悲惨さと苦悩が描かれ、語り部がその絵を補足し参加者を引き付けていた。最後に歌「ガラスのうさぎ」を参加者で合唱し、中身の充実したつどいは終了した。

つどいの終了後に買い求めた「ガラスのうさぎ」著書は、高木さんの実体験を題材に戦争の悲惨さを描いた小説で、東京大空襲で母親と妹たちをなくし、その後、機銃掃射で父親を目の前でなくしてしまった少女の視点から描かれている一

冊でした。つぎつぎに家族をなくし、縁故疎開先で、親せきとはうまくいわずに、悲しい思いをするなど、少女の苦しみが、リアルに伝わってくる、戦争の悲惨さ、平和の大切さについて、考えさせられる作品でした。戦後世代が大半を占める時代に、平和への関心を高め、二度と戦争を起こさない社会とするために！



(紙芝居の上映中)

長崎平和を考える集会及び長崎爆心地公園

の黙祷に参加して！ 報告ピースサイクル神奈川 佐藤

8月6日から9日の4日間で開催された、玄海～長崎ピースサイクルに参加した。ピースサイクルでは、玄海原発稼働反対の申入れ、玄海町に文献調査受け入れ中止の要請（8月7日）、そして長崎平和を考える集会（8月8日）、原爆朝鮮人犠牲者追悼集会と長崎平和資料館館長への平和メッセージの手交、長崎爆心地公園での県民集会と黙祷（8月9日）に参加した。長崎平和集会では、「核兵器は遺伝子を標的とする非人道的兵器！」をテーマの講演を伺い核兵器被害の悲惨さを学んだ。翌朝6時の長崎市内は豪雨。各集会や行事の開催が危ぶまれたものの、早朝7時30分から開催の朝鮮人犠牲者集会は少しの雨に降られたが、11時2分からの黙祷は雨が止み行事は無事開催された。時間にはサイレンが響き公園に参集した人々は、80年前の状況を悲しみ黙祷した。戦争しない国とするために一歩前進しましょう。

長崎爆心地公園
での黙祷) →



原水禁世界大会参加して

報告 郵政ユニオン神奈川 竜田

8月4日から6日の日程で原水禁世界大会に参加しました。原爆被害者の生の体験、そして苦しんだその後の人生に心打たれました。核の被害は一般市民を巻き込む残虐な核攻撃だけでなく、放射能による被曝まで幅広く存在します。広島、長崎に限らず、核実験場となった国や地域の人々、さらに原発事故により多くの福島県民が未だ犠牲になっています。核の脅威と被害から人類が解放されるのを願っています。

2日目午後は呉基地の軍港ツアーに参加しました。戦艦大和が建造された大型ドック、艦隊が集結する軍港、解体中の日本製鉄工場を見て回り、呉が基地の町として国から軍事優先主義をいかに担わされているか目の当たりにした。舞鶴、佐世保、横須賀に並び軍港法をもつ旧軍港市の現状を憂っています。

3日目は、原爆忌当日は場外ですが慰霊式典に参加しました。広島市長、県知事からのメッセージで、核抑止論は誤った議論で役に立たない、核による脅迫は許さないという論点が示されました。核廃絶のために私も一労働者、一市民として声を上げていきたい。



(原水禁25世界大会広島に参加して)